

図 2-15 / 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

総合科学技術・イノベーション会議が科学技術イノベーション政策の司令塔機能を発揮し実施する「戦略的イノベーション創造プログラム」の推進等に
必要な経費として内閣府に計上する「科学技術イノベーション創造推進費」を平成26年度に創設。**平成27年度も継続的かつ力強く推進。**

SIP※1 (戦略的イノベーション創造プログラム)

(概要・目的)

- 総合戦略※2及び日本再興戦略※3に基づき、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮し、**府省・分野の枠を超えて基礎研究から出口(実用化・事業化)までをも見据えた研究開発を推進**することを通じて、科学技術イノベーションの実現。
- プログラムの実施にあたっては、資源配分方針※4に基づき、**総合科学技術・イノベーション会議が関係府省の取組を俯瞰して推進すべき課題・取組**を特定し、会議が定める方針の下で予算を重点配分(調整費。各省に移し替え等)。
- エネルギー、次世代インフラ、地域資源、健康医療の4分野を特定し、前3分野において府省横断型の重要な10課題を決定※5。

※1 Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

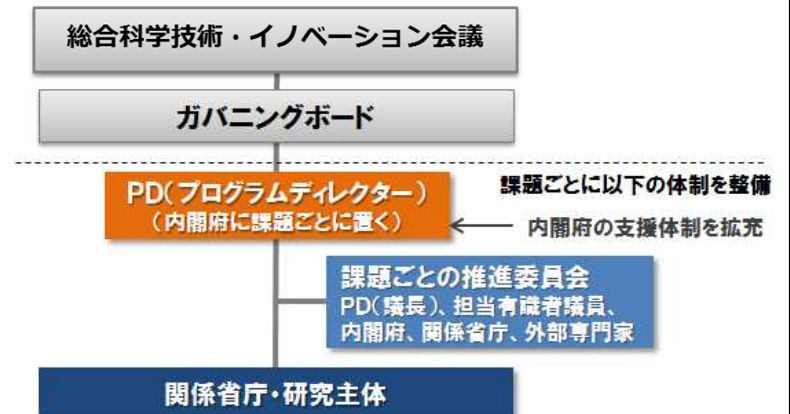
※2 科学技術イノベーション総合戦略2014 (平成26年6月24日閣議決定)

※3 「日本再興戦略」改訂2014 (平成26年6月24日閣議決定)

※4 平成27年度科学技術に関する予算等の資源配分方針を策定し、中心となるイノベーション会議決定)

※5 平成26年5月23日総合科学技術・イノベーション会議

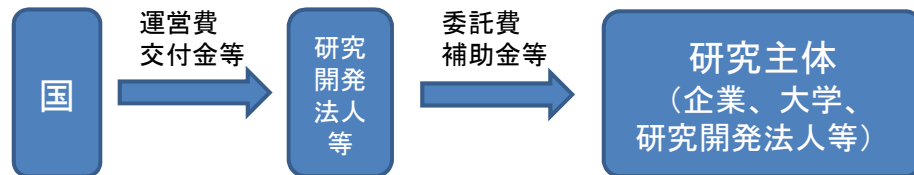
<実施体制>



- **課題ごとにPDを設定**。PDは、研究開発計画、

出口戦略等を策定し、中心となって推進。

資金の流れ



期待される効果

- 「戦略的イノベーション創造プログラム」により、鍵となる技術の開発等を通じて、社会的課題を解決。我が国産業における**有望な市場を創造、日本経済を再生(持続的経済成長、市場・雇用の創出等)**。

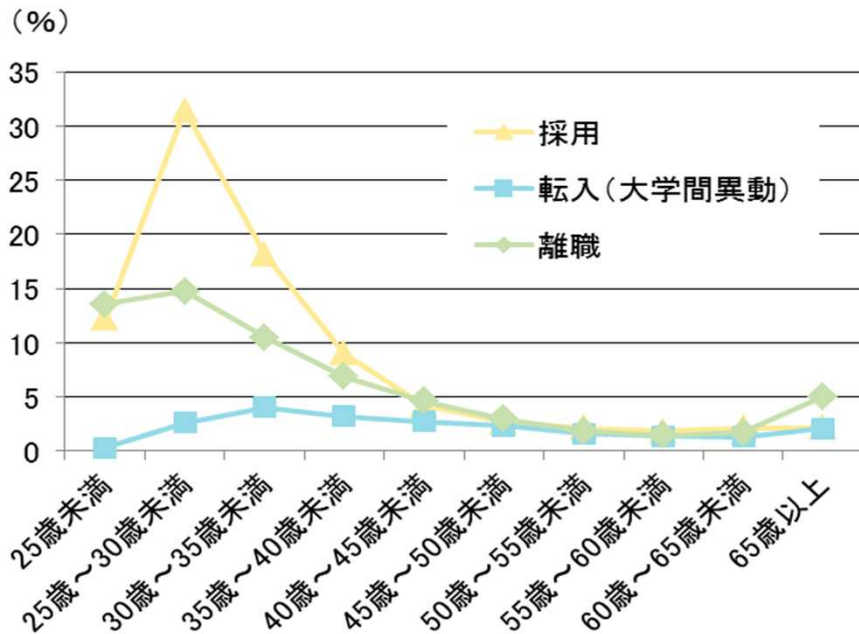
(注) 健康医療分野については、健康・医療戦略推進本部が平成26年7月22日に決定した「平成27年度 医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針」等に基づき、同本部の総合的な予算要求配分調整の下で実施する。

3. 主な課題

図3-1 / 大学及び公的研究機関の研究者の状況

- 大学本務教員の異動者数の割合については、25～30歳未満をピークに年齢が上がるにつれて減少。若手教員の流動性は高いが、シニア教員の流動性は低い。
- 大学、独立行政法人等において、若手の任期付き割合が多い。

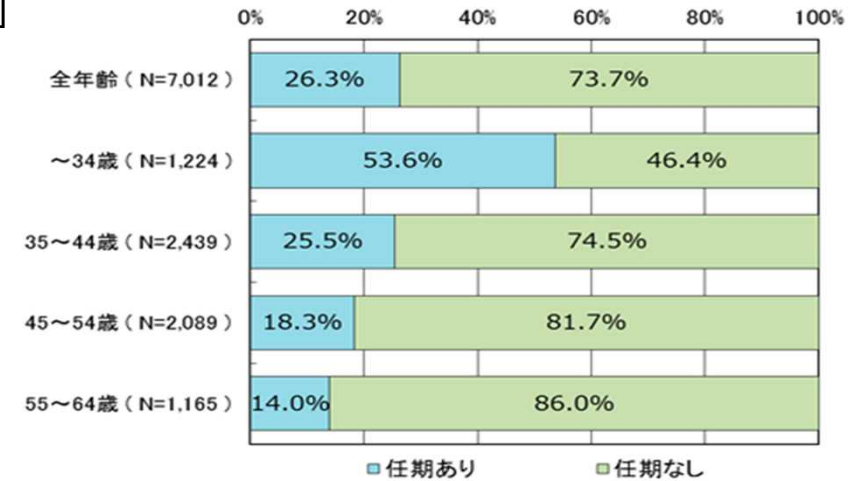
大学本務教員の異動状況



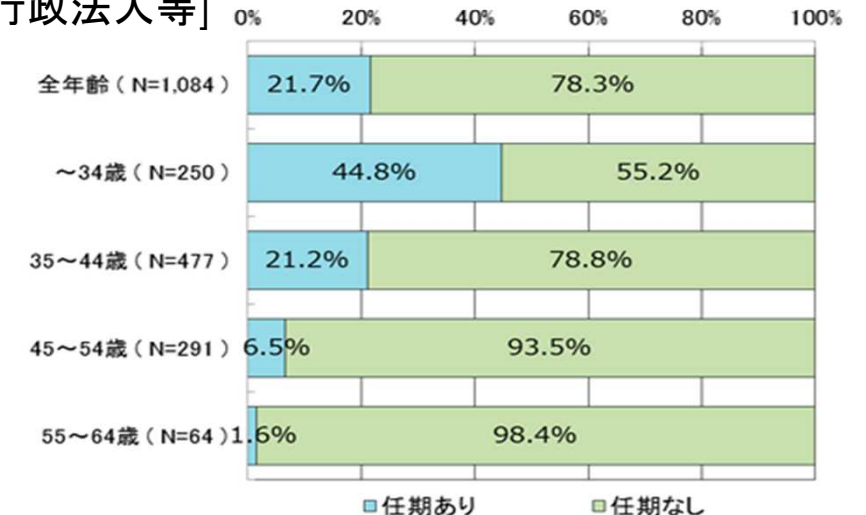
出典：「学校教員統計調査」（平成22年度）を基に文部科学省作成

年齢層別任期制適用割合

[大学]



[独立行政法人等]



出典：科学技術政策研究所「科学技術人材に関する調査」（平成21年3月）